

令和 5 年 12 月の解説（府県天気予報）

【12 月の天候状況】

上旬は、全国的に天気は数日の周期で変わり、本州付近は高気圧に覆われる日が多かった。このため、旬降水量は北・西日本日本海側と東日本太平洋側でかなり少なく、北・西日本太平洋側と東日本日本海側で少なかった。また、旬間日照時間は北・東・西日本太平洋側でかなり多く、北・東・西日本日本海側で多かった。期間の後半を中心に大陸からの寒気の流れ込みが弱く、日本の北を低気圧が通過して暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、北日本の旬平均気温は高かった。沖縄・奄美では気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすく、4 日から 5 日頃に低気圧が通過してまとまった雨が降ったため、旬降水量は多かった。

中旬は、本州付近を中心に、16 日頃までは前線を伴った低気圧が繰り返し通過したため曇りや雨または雪の日が多く、また、気温が平年を大きく上回る日が続いた。一方、17 日頃からは冬型の気圧配置が強まったため、48 時間降雪量の日最大値が北海道留萌（19 日に 105cm）で観測史上 1 位の値を更新するなど、北・東日本日本海側を中心に大雪となった所もあり、強い寒気の影響で全国的に気温が平年を下回る日が多かった。沖縄・奄美では、期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、期間の後半は気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。これらのことから、旬降水量は西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、旬間日照時間は北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり少なかった。西日本日本海側の旬間日照時間平年比は 47%で、1961 年の統計開始以降、12 月中旬として 1 位の寡照となった。

下旬は、期間の前半は、冬型の気圧配置に伴って強い寒気が流れ込んだため、全国的に気温が低く、48 時間降雪量の日最大値が石川県輪島（23 日に 60cm）で観測史上 1 位の値を更新するなど、北・東・西日本日本海側で大雪となった所があった。期間の後半は、冬型の気圧配置が緩み、北・東日本太平洋側を中心に高気圧に覆われて晴れて気温の高い日が多かった。これらのことから、東日本日本海側では旬降水量がかなり多く、北・東日本太平洋側では旬間日照時間がかなり多かった。また、沖縄・奄美では旬間日照時間がかなり少なかった。

【12 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 1 ポイント高い 85%で、明後日予報は例年値より 4 ポイント高い 85%でした。地方別の適中率では、明日予報は、四国と九州北部地方以外の各地方で例年値と同じか例年値を上回りました。また、明後日予報は、九州北部地方以外の各地方で例年値と同じか例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1℃小さい 1.3℃で、全ての地方で例年値と同じか例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.3℃で、すべての地方で例年値と同じか例年値よりも小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2 月の天気予報の利用にあたって】

2月には、低気圧が発達しながら日本海から北日本に進み、低気圧通過の前後で天気が急変することがあります。また、低気圧通過前は強い南よりの風が吹いて気温が急激に上がり、低気圧通過後は強い北よりの風が吹いて気温が急速に下がるなど、気温が大きく変化することがあります。低気圧が日本付近を発達しながら通過する場合、暴風や猛ふぶき、大雪、なだれなどによる災害が発生しやすくなります。災害に備えて、各地の気象台が発表する最新の警報や注意報、早期注意情報、気象情報に留意して下さい。